

はさまれ・巻き込まれ災害撲滅キャンペーン！

Step upで取り組みましょう！

Step 1 : トップの意思表示

安全週間などの節目を利用しましょう。

何ごとにもトップが強いリーダーシップのもとで、方向性を明確にすることが大切です。トップが、はさまれ・巻き込まれ災害を撲滅すること、リスクを低減すること、それぞれの職場に応じた目標を示しましょう。

ボトムアップで現場の意見を吸い上げましょう。

Step 2 : 現状把握

事故にまで至らなかったヒヤリ事案も含めて、職場の現状はどうなっているか把握しましょう。どこに危険があるか、また、作業手順も点検しましょう。実際の作業手順は、許容できるリスクの範囲内か、遵守されているか点検しましょう。実際に作業する人にとって、受け入れ難い作業手順は、絵にかいた餅で終わります。

Step 3 : リスク評価と大原則の対策実施

Step2で把握した現状に対してリスクアセスメントを実施し、改善の優先順位と対策を決めましょう。

この時、基本中の基本となるのが、以下の対策です。

1. カバーや覆いの設置 《ハード面の改善》
2. 作業手順の順守（調整作業時は機械の停止を徹底させる。） 《ソフト面の改善》

対策を実施後は必ず、リスクを最大限に低減しているか、不具合がないか、定着しているか、『評価』して、必要があれば『改善』をしましょう。

特に、2番目の作業手順の順守は、Step2で触れたとおり、現実を無視したものと定着しません。

定着には、意識改善と日々の取り組みが必要です。

Step 4 : 掃除・点検・修理などのルール

いわゆる非定常作業は、頻度も形態も様々です。しかしながら、定常作業に比べると、災害リスクが増加することには変わりはなく、また、特殊なケースでは機械を完全停止できない場合もあり、設備的(ハード面)な対策が難しい場合もあり、機械ごと、作業ごとに作業手順やルール(ソフト面)などの対策とその徹底が必要になります。非定常作業についてもStep1から3を参考に、ひとつひとつリスクの洗い出し作業をPDCA(計画、実行、チェック、改善)のサイクルで取り組みましょう。

一人ひとりに応じた教育

Step 5 : 経験年数・職階・年齢などに応じた教育

新人、ベテラン、職長など中心的役割の人、高年齢労働者などなど職場は、さまざまな人が集まってできています。ですから、一つの職場内でも、同じアプローチで良いもの、それぞれの特徴や特色に合わせて対応した方が良いものがあります。一人ひとりに合った安全教育を目指しましょう。

継続し、向上を目指す

Step 6 : その先の労働災害防止活動へ

労働災害防止活動は、終わりが無いと言われていています。また、PDCAサイクルを続けること、継続が大切とも言われています。日々積み重ねた災害防止活動は、歴史となり、いつしか会社の安全文化として財産となる時がきます。そして、それは地域にも伝播し、社会の財産となります。高い水準の災害防止活動を目指しましょう。



本年度も真岡労働基準監督署では、「労働災害防止対策強化運動2020！」～Safety-first.To zero To zero～を実施しております。リスクゼロ、重大災害ゼロを目指しましょう。